

平成22年度電気学会高校生懸賞論文コンテスト講評

電気学会電力・エネルギー部門
編修委員会委員長
大山 力

高校生懸賞論文コンテストは、今年で4年目を迎えました。これは、高校生に電気エネルギー技術を身近なものと感じ、我が国の基盤を支える重要な技術であること、未来を拓く有望な技術であることを理解いただき、電気工学を学ぶ契機となることを期待して始まりました。今回は全国の高等学校14校、工業高等専門学校10校から117編の論文を応募いただきました。そして、厳正な審査の結果、下表のように最優秀論文1編、優秀論文2編、佳作5編を選考するとともに指導者賞として優秀な応募論文をご指導いただいた先生1名を選出しました。

応募いただいた論文は、論旨の展開、独創性、発展性、客観性など幅広い観点から評価して1次、2次審査を実施しました。

多くの論文は、予め提示した参考となる文献やホームページ、科学館などの施設を調査して論文としてまとめたもの、学校であるいは自ら実験・観察して結果を考察したものです。内容は環境問題、新エネルギー、省エネルギーに関する論文が多くを占めています。新エネルギーの中では太陽光発電に着目した論文が最も多く、風力発電、燃料電池、水力発電、その他の未利用エネルギーを利用した発電方法などユニークな論文もありました。中には、原子力発電や送電技術などの電力システムに関するもの、近年注目されているスマートグリッドに関するものなど専門的な論文も見受けられ、勉強されている様子もうかがわれました。審査委員は、これら多彩な発想に満ちた応募論文を、興味深く、また楽しく拝読させていただきました。

評価の高い論文は、高校生らしい視点や考え方で課題を捉え、積極的に自分の意見を述べているものでした。とうてい実用化は困難と思われる提案でも、高校生らしい自由で柔軟な発想が、高く評価された論文もありました。一方、良くまとめられているものの主張がない論文の評価は、あまり高くありませんでした。

今回、論文を審査する中で、現代の高校生が電気エネルギーの技術や課題に対しどのように考えているのか読み取ることができました。このことから、現代社会の誰もが関わる電気エネルギーについて、我々電気学会の会員が分かりやすく伝えていくことの重要性を再認識した論文審査でもありました。論文を応募された高校生の中から将来電気学会で活躍するような研究者、技術者が現れることを願っています。そして3月12日の表彰式で受賞した皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

論文募集の周知方法、募集開始と締め切りの時期、選考方法など、23年度には更なる改善を図り、盛り上がりのある高校生懸賞論文コンテストにしていきたいと思っております。23年度も6月頃にご案内する予定ですので、引き続き多くの高校生に応募いただくよう関係者のご協力をお願いいたします。

本コンテストの企画・推進にあたり、共催のパワーアカデミー（電気事業連合会）ならびに多くの論文審査委員の皆さまにご支援、ご協力をいただきました。感謝申し上げます。